27. 判断 Judgment

判断とは、マインドの腐りかけた状態のことです。そしてマインドは、常に判断を求めています。
進行している動きのなかにいるのは常に危険で、居心地がよくないからです。とても、とても勇敢でありなさい。成長するのをやめてはいけません。瞬間のなかで生きて、生の流れのなかにただとどまりなさい。

この物語は老子の時代に中国で起こり、老子はそれを非常に愛した。
村にひとりの老人がいた。彼は非常に貧しかったが、美しい白馬をもっていたために、王たちでさえ彼を嫉妬した……。王たちはその馬に途方もない値をつけたが、その男はいつもこう言った。「この馬は、私にとって

ある朝、馬が馬小屋からいなくなっていた。村中が集まって言った。「じいさん、あんたはばかだよ！ いつかは馬が盗まれるということは、俺たちにはわかっていたんだ。あいつは売った方がよかったんだよ。なんて運の

老人は言った。「そんなに言いすぎてはいけない。馬小屋に馬がいないとだけ言えばいい。それが事実だ。ほかのことはすべ
て判断だ。それが不幸なのか、それとも祝福なのか、私は知らない。というのも、これは断片にすぎないからだ。その後になにがつづくのかは誰にもわからないだろう？」
人びとは老人を笑った。彼らはいつも、この老人は少し狂っていると思っていたのだ。だが十五日たって、ある夜突然、馬が帰ってきた。馬は盗まれたのではなかった。山野(さんや)に逃げていたのだ。しかもそれだけで
またしても人びとが集まって言った。「じいさん、正しかったじゃないか。これは不幸ではなく、祝福だったということが確かに証明されたんだ」

老人は言った。「またしてもあなた方は行きすぎる。馬が戻ってきたとだけ言えばいい……それが祝福かどうか誰にが知っている？ それは判断にすぎないのだ。あなた方は文章のひとつのことばしか読まない――
今度は人びとはあまり多くは言えなかった。だが内側では、彼はまちがっていると知っていた。十二頭の美しい馬が来たのだ……。
老人にはひとり息子がいて、その野性馬を馴らし始めた。ちょうど一週間後、彼は馬から落ちて両足を折った。人びとはまた集まってきて、再び判断した。彼らは言った。「またしてもお前さんが正しいということになった
老人は言った。「あなた方は判断にとりつかれている。そんなに行きすぎてはいけない。私の息子が両足を折ったとだけ言えばいい。これが不幸か、祝福か、誰も知らないのだ。生は断片のままやってきて、それ以上は決し

数週間たつと、その国は戦争に入り、町の若者たちはみな軍隊に取られることになった。老人の息子だけは残った。歩けなかったからだ。町中が泣き、すすり泣いていた。それは負け戦で、ほとんどの若者は帰ってこないと
老人は再び言った。「あなた方はいつまでもいつまでも判断しつづける。誰にもわからないのだ！ あなた方の息子は軍隊に入るように強制され、私の息子は強制されなかったとだけ言えばいい。だが神〈全体なるもの〉だ
判断しないことだ。さもなければ、あなたはけっして〈全体なるもの〉とひとつにはならない。断片であなたはとりつかれる。
小さなことであなたは結論に飛びつく。一度判断したら、あなたは成長をやめたのだ。判断とは、マインドの腐りかけた状態のことだ。そしてマインドは常に判断を求める。進行している動きのなかにいるのは常に危険で、

事実、旅はけっして終わらない。ある道が終わり、別の道が始まる。ある扉が閉まり、別の扉が開く。あなたは頂上に辿り着く。そこには常に、さらに高い頂きがある。神は終わりのない旅だ。ゴールを気にせずに、旅で満

UNTIL YOU DIE, pp.36-40

Revision #4
Created 5 October 2024 07:48:57 by ゆう
Updated 24 October 2024 07:12:11 by ゆう